



Flexible NetFlow : IPv4 ユニキャスト フロー

Flexible NetFlow : IPv4 ユニキャスト フロー機能によって、Flexible NetFlow で IPv4 トラフィックをモニタできます。

- [機能情報の確認, 1 ページ](#)
- [Flexible NetFlow IPv4 ユニキャスト フローについて, 1 ページ](#)
- [Flexible NetFlow IPv4 ユニキャスト フローの設定方法, 2 ページ](#)
- [Flexible NetFlow IPv4 ユニキャスト フローの設定例, 14 ページ](#)
- [Flexible NetFlow : IPv4 ユニキャスト フローの機能情報, 16 ページ](#)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の警告および機能情報については、『[Bug Search Tool](#)』およびご使用のプラットフォームとソフトウェアリリースに対応したリリースノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

Flexible NetFlow IPv4 ユニキャスト フローについて

Flexible NetFlow : IPv4 ユニキャスト フローの概要

この機能によって、Flexible NetFlow で IPv4 トラフィックをモニタできます。

Flexible NetFlow IPv4 ユニキャストフローの設定方法

カスタマイズしたフローレコードの設定

カスタムフローレコードを設定するには、次の作業を実行します。

カスタマイズしたフローレコードは、特定の目的でトラフィックデータを分析するために使用します。カスタマイズしたフローレコードには、**key** フィールドとして使用する 1 つ以上の **match** 基準が必須で、通常は **nonkey** フィールドとして使用する 1 つ以上の **collect** 基準があります。

カスタマイズしたフローレコードの順列は、数百もの可能性があります。この作業では、可能性のある順列の 1 つを作成するための手順について説明します。必要に応じてこの作業の手順を変更し、要件に合わせてカスタムフローレコードを作成します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow record** *record-name*
4. **description** *description*
5. **match** {*ipv4* | *ipv6*} {*destination* | *source*} **address**
6. 必要に応じてステップ 5 を繰り返し、レコードの追加 **key** フィールドを設定します。
7. **collect interface** {*input* | *output*}
8. 必要に応じてステップ 7 を繰り返し、レコードの追加 **nonkey** フィールドを設定します。
9. **end**
10. **show flow record** *record-name*
11. **show running-config flow record** *record-name*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	flow record <i>record-name</i> 例 : Device(config)# flow record FLOW-RECORD-1	フローレコードを作成し、Flexible NetFlow フローレコード コンフィギュレーション モードを開始します。 • このコマンドでは、既存のフローレコードを変更す ることもできます。
ステップ 4	description <i>description</i> 例 : Device(config-flow-record)# description Used for basic traffic analysis	(任意) フローレコードの説明を作成します。
ステップ 5	match {ipv4 ipv6} {destination source} address 例 : Device(config-flow-record)# match ipv4 destination address	フローレコードの key フィールドを設定します。 (注) この例では、IPv4 宛先アドレスをレコードの key フィールドとして設定します。 match ipv4 コマンドで使用可能なその他の key フィール ド、およびkey フィールドの設定に使用可能な その他の match コマンドについては、『Cisco IOS Flexible NetFlow Command Reference』を参 照してください。
ステップ 6	必要に応じてステップ 5 を繰り返し、レ コードの追加 key フィールドを設定しま す。	—
ステップ 7	collect interface {input output} 例 : Device(config-flow-record)# collect interface input	入力インターフェイスをレコードの nonkey フィールドと して設定します。 (注) 次に、入力インターフェイスをレコードの nonkey フィールドとして設定する例を示しま す。 nonkey フィールドの設定に使用可能なそ の他の collect コマンドについては、『Cisco IOS Flexible NetFlow Command Reference』を参照し てください。
ステップ 8	必要に応じてステップ 7 を繰り返し、レ コードの追加 nonkey フィールドを設定し ます。	—
ステップ 9	end 例 : Device(config-flow-record)# end	Flexible NetFlow フローレコード コンフィギュレーシ ョン モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 10	show flow record <i>record-name</i> 例 : Device# show flow record FLOW_RECORD-1	(任意) 指定されたフローレコードの現在のステータスを表示します。
ステップ 11	show running-config flow record <i>record-name</i> 例 : Device# show running-config flow record FLOW_RECORD-1	(任意) 指定されたフローレコードの設定を表示します。

フローエクスポートの設定

フローエクスポートを設定するには、次の必須作業を実行します。



(注)

フローエクスポートごとに、1つ宛先のみがサポートされます。複数の宛先にデータをエクスポートする場合は、複数のフローエクスポートを設定してフローモニタに割り当てる必要があります。

IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかを使用して宛先にエクスポートできます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow exporter** *exporter-name*
4. **description** *description*
5. **destination** {*ip-address* | *hostname*} [*vrf vrf-name*]
6. **export-protocol** {*netflow-v5* | *netflow-v9* | *ipfix*}
7. **dscp** *dscp*
8. **source** *interface-type interface-number*
9. **option** {*exporter-stats* | *interface-table* | *sampler-table* | *vrf-table*} [*timeout seconds*]
10. **output-features**
11. **template data timeout** *seconds*
12. **transport udp** *udp-port*
13. **ttl** *seconds*
14. **end**
15. **show flow exporter** *exporter-name*
16. **show running-config flow exporter** *exporter-name*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	flow exporter <i>exporter-name</i> 例： Device(config)# flow exporter EXPORTER-1	フロー エクスポートを作成し、Flexible NetFlow フロー エクスポート コンフィギュレーションモードを開始します。 • このコマンドでは、既存のフロー エクスポートを変更することもできます。
ステップ 4	description <i>description</i> 例： Device(config-flow-exporter)# description Exports to the datacenter	(任意) コンフィギュレーションおよび show flow exporter コマンドの出力に表示されるエクスポートの説明を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	<p>destination {<i>ip-address</i> <i>hostname</i>} [vrf <i>vrf-name</i>]</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-flow-exporter)# destination 172.16.10.2</pre>	<p>エクスポートの宛先システムの IP アドレスまたはホスト名を指定します。</p> <p>(注) IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかを使用して宛先にエクスポートできます。</p>
ステップ 6	<p>export-protocol {netflow-v5 netflow-v9 ipfix}</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-flow-exporter)# export-protocol netflow-v9</pre>	<p>エクスポートで使用する NetFlow エクスポートプロトコルのバージョンを指定します。NBAR から抽出されたフィールドのエクスポートは IPFIX でのみサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルト値 : netflow-v9。
ステップ 7	<p>dscp <i>dscp</i></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-flow-exporter)# dscp 63</pre>	<p>(任意) エクスポートによって送信されるデータグラムの Diffserv コードポイント (DSCP) パラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 引数 <i>dscp</i> の範囲は 0 ~ 63 です。デフォルト : [0]。
ステップ 8	<p>source <i>interface-type</i> <i>interface-number</i></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-flow-exporter)# source ethernet 0/0</pre>	<p>(任意) エクスポートで、エクスポートされたデータグラムの送信元 IP アドレスとして IP アドレスを使用するローカルインターフェイスを指定します。</p>
ステップ 9	<p>option {exporter-stats interface-table sampler-table vrf-table} [timeout <i>seconds</i>]</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-flow-exporter)# option exporter-stats timeout 120</pre>	<p>(任意) エクスポートのオプションデータ パラメータを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 つのオプションを同時に設定できます。 引数 <i>seconds</i> の範囲は、1 ~ 86,400 です。デフォルト値 : 600。
ステップ 10	<p>output-features</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-flow-exporter)# output-features</pre>	<p>(任意) Quality of Service (QoS) と暗号化を使用したエクスポートパケットの送信をイネーブルにします。</p>
ステップ 11	<p>template <i>data</i> timeout <i>seconds</i></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-flow-exporter)# template data timeout 120</pre>	<p>(任意) タイムアウトに基づいてテンプレートの再送信を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 引数 <i>seconds</i> の範囲は、1 ~ 86400 です (86400 秒 = 24 時間)。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	transport udp <i>udp-port</i> 例： Device(config-flow-exporter)# transport udp 650	エクスポートされるデータグラムを宛先システムが待機する UDP ポートを指定します。 • 引数 <i>udp-port</i> の範囲は 1 ~ 65536 です。
ステップ 13	ttl <i>seconds</i> 例： Device(config-flow-exporter)# ttl 15	(任意) エクスポートによって送信されるデータグラムの存続可能時間 (TTL) 値を設定します。 • 引数 <i>seconds</i> の範囲は 1 ~ 255 です。
ステップ 14	end 例： Device(config-flow-exporter)# end	フロー エクスポート コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 15	show flow exporter <i>exporter-name</i> 例： Device# show flow exporter FLOW_EXPORTER-1	(任意) 指定されたフロー エクスポートの現在のステータスを表示します。
ステップ 16	show running-config flow exporter <i>exporter-name</i> 例： Device# show running-config flow exporter FLOW_EXPORTER-1	(任意) 指定されたフロー エクスポートの設定を表示します。

カスタマイズしたフロー モニタの作成

カスタム フロー モニタを作成するには、次の必須作業を実行します。

各フローモニタには、専用のキャッシュが割り当てられています。フローモニタごとに、キャッシュ エントリの内容およびレイアウトを定義するレコードが必要です。

はじめる前に

Flexible NetFlow の事前定義済みレコードの代わりにカスタマイズしたレコードを使用する場合は、このタスクを実行する前に、カスタマイズしたレコードを作成する必要があります。

データをエクスポートするためにフローエクスポートをフローモニタに追加する場合は、このタスクを完了する前にエクスポートを作成する必要があります。



(注) フロー モニタで **record** コマンドのパラメータを変更する前に、**no ip flow monitor** コマンドを使用して、すべてのインターフェイスから適用済みのフロー モニタを削除する必要があります。**ip flow monitor** コマンドについては、『Cisco IOS Flexible NetFlow Command Reference』を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow monitor** *monitor-name*
4. **description** *description*
5. **record** {*record-name* | **netflow-original** | **netflow** {**ipv4** | **ipv6**} *record* [**peer**]}
6. **cache** {**entries** *number* | **timeout** {**active** | **inactive** | **update**} *seconds* | **type** {**immediate** | **normal** | **permanent**}}
7. 必要に応じてステップ 6 を繰り返して、このフロー モニタのキャッシュ パラメータの変更を完了します。
8. **statistics packet** **protocol**
9. **statistics packet** **size**
10. **exporter** *exporter-name*
11. **end**
12. **show flow monitor** [[**name**] *monitor-name* [**cache** [**format** {**csv** | **record** | **table**}]]] [**statistics**]]
13. **show running-config flow monitor** *monitor-name*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	flow monitor <i>monitor-name</i> 例： Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1	フロー モニタを作成し、Flexible NetFlow フロー モニタ コンフィギュレーションモードを開始します。 • このコマンドでは、既存のフロー モニタを変更することもできます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	description <i>description</i> 例： <pre>Device(config-flow-monitor)# description Used for basic ipv4 traffic analysis</pre>	(任意) フロー モニタの説明を作成します。
ステップ 5	record { <i>record-name</i> netflow-original netflow { ipv4 ipv6 } <i>record</i> [peer]} 例： <pre>Device(config-flow-monitor)# record FLOW-RECORD-1</pre>	フロー モニタのレコードを指定します。
ステップ 6	cache { entries <i>number</i> timeout { active inactive update } <i>seconds</i> type { immediate normal permanent }} 例： <pre>Device(config-flow-monitor)# cache type normal</pre>	(任意) フロー モニタ キャッシュ パラメータ (タイムアウト値、キャッシュ エントリ数、キャッシュタイプなど) を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> • timeout キーワードに関連するキーワードの値は、キャッシュタイプが immediate に設定されている場合には反映されません。
ステップ 7	必要に応じてステップ 6 を繰り返して、このフロー モニタのキャッシュ パラメータの変更を完了します。	—
ステップ 8	statistics packet protocol 例： <pre>Device(config-flow-monitor)# statistics packet protocol</pre>	(任意) Flexible NetFlow モニタのプロトコル分散統計情報の収集をイネーブルにします。
ステップ 9	statistics packet size 例： <pre>Device(config-flow-monitor)# statistics packet size</pre>	(任意) Flexible NetFlow モニタのサイズ分散統計情報の収集をイネーブルにします。
ステップ 10	exporter <i>exporter-name</i> 例： <pre>Device(config-flow-monitor)# exporter EXPORTER-1</pre>	(任意) 事前に作成されたエクスポートの名前を指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	end 例 : Device(config-flow-monitor)# end	Flexible NetFlow フロー モニタ コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 12	show flow monitor [[name] <i>monitor-name</i> [cache [format {csv record table}]] [statistics]] 例 : Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-2 cache	(任意) Flexible NetFlow フロー モニタのステータスおよび統計情報を表示します。
ステップ 13	show running-config flow monitor <i>monitor-name</i> 例 : Device# show running-config flow monitor FLOW_MONITOR-1	(任意) 指定されたフロー モニタの設定を表示します。

インターフェイスへのフロー モニタの適用

フローモニタをアクティブ化する前に、1つ以上のインターフェイスに適用する必要があります。フローモニタをアクティブ化するには、次の必須作業を実行します。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **interface** *type number*
4. **{ip | ipv6} flow monitor** *monitor-name* {input | output}
5. ステップ 3 および 4 を繰り返して、トラフィックをモニタするデバイスの他のインターフェイスでフロー モニタをアクティブ化します。
6. **end**
7. **show flow interface** *type number*
8. **show flow monitor name** *monitor-name* **cache format record**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface type number 例： Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	インターフェイスを指定し、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	{ip ipv6} flow monitor monitor-name {input output} 例： Device(config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 input	作成済みのフローモニタを、トラフィックの分析対象となるインターフェイスに割り当てることで、そのフローモニタをアクティブにします。
ステップ 5	ステップ 3 および 4 を繰り返して、トラフィックをモニタするデバイスの他のインターフェイスでフローモニタをアクティブ化します。	—
ステップ 6	end 例： Device(config-if)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 7	show flow interface type number 例： Device# show flow interface GigabitEthernet 0/0/0	指定されたインターフェイスの Flexible NetFlow のステータス（イネーブルまたはディセーブル）を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<pre>show flow monitor name <i>monitor-name</i> cache format record</pre> <p>例 :</p> <pre>Device# show flow monitor name FLOW_MONITOR-1 cache format record</pre>	指定されたフローモニタのステータス、統計情報、およびキャッシュ内のフローデータを表示します。

データ エクスポートによる Flexible NetFlow の設定とイネーブル化

キャッシュデータをエクスポートするトラフィックのタイプを設定するには、フローモニタを作成する必要があります。データのエクスポートを開始する 1 つ以上のインターフェイスに適用することによって、フローモニタをイネーブルにする必要があります。データエクスポートで Flexible NetFlow を設定してイネーブルにするには、次の必須タスクを実行します。

各フローモニタには、専用のキャッシュが割り当てられています。フローモニタごとに、キャッシュエントリの内容およびレイアウトを定義するレコードが必要です。レコードフォーマットは、事前定義済みのレコードフォーマットのいずれかにすることもできますが、上級のユーザであれば Flexible NetFlow フローレコードコンフィギュレーションモードで **collect** および **match** コマンドを使用して独自のレコードフォーマットを作成することもできます。



(注) フローモニタのレコードフォーマットを **record** コマンドで変更するには、その前にフローモニタを適用してあるすべてのインターフェイスから、フローモニタを削除しておく必要があります。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow monitor *monitor-name***
4. **record {*record-name* | netflow-original | netflow {*ipv4* | *ipv6* record [*peer*]}}**
5. **exporter *exporter-name***
6. **exit**
7. **interface *type number***
8. **{*ip* | *ipv6*} flow monitor *monitor-name* {**input** | **output**}**
9. **end**
10. **show flow monitor [[*name*] *monitor-name* [cache [format {*csv* | **record** | **table**}]][*statistics*]]**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	flow monitor monitor-name 例： Device(config)# flow monitor FLOW-MONITOR-1	フロー モニタを作成し、Flexible NetFlow フロー モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。 • このコマンドでは、既存のフロー モニタを変更す ることもできます。
ステップ 4	record {record-name netflow-original netflow {ipv4 ipv6 record [peer] }} 例： Device(config-flow-monitor)# record netflow ipv4 original-input	フロー モニタのレコードを指定します。
ステップ 5	exporter exporter-name 例： Device(config-flow-monitor)# exporter EXPORTER-1	事前に作成されたエクスポートの名前を指定します。
ステップ 6	exit 例： Device(config-flow-monitor)# exit	Flexible NetFlow フロー モニタ コンフィギュレーション モードを終了して、グローバル コンフィギュレーシ ョン モードに戻ります。
ステップ 7	interface type number 例： Device(config)# interface GigabitEthernet 0/0/0	インターフェイスを指定し、インターフェイスコンフィ ギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<pre>{ip ipv6} flow monitor <i>monitor-name</i> {input output}</pre> <p>例 :</p> <pre>Device(config-if)# ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 input</pre>	作成済みのフロー モニタを、トラフィックの分析対象となるインターフェイスに割り当てることで、そのフロー モニタをアクティブにします。
ステップ 9	<pre>end</pre> <p>例 :</p> <pre>Device(config-if)# end</pre>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 10	<pre>show flow monitor [[<i>name</i>] <i>monitor-name</i> [cache [format {csv record table}]]][<i>statistics</i>]</pre> <p>例 :</p> <pre>Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-2 cache</pre>	(任意) Flexible NetFlow フロー モニタのステータスおよび統計情報を表示します。これは、データエクスポートがフローモニタキャッシュに対してイネーブルになっていることを確認します。

Flexible NetFlow IPv4 ユニキャストフローの設定例

例：複数エクスポート先の設定

次に、IPv4 または IPv6 のトラフィックに Flexible NetFlow の複数のエクスポート先を設定する方法の例を示します。

この例は、グローバル コンフィギュレーション モードで開始します。

```
!
flow exporter EXPORTER-1
 destination 172.16.10.2
 transport udp 90
 exit
!
flow exporter EXPORTER-2
 destination 172.16.10.3
 transport udp 90
 exit
!
flow record v4_r1
 match ipv4 tos
 match ipv4 protocol
 match ipv4 source address
 match ipv4 destination address
 match transport source-port
 match transport destination-port
```

```

collect counter bytes long
collect counter packets long
!
flow record v6_r1
match ipv6 traffic-class
match ipv6 protocol
match ipv6 source address
match ipv6 destination address
match transport source-port
match transport destination-port
collect counter bytes long
collect counter packets long
!

flow monitor FLOW-MONITOR-1
record v4_r1
exporter EXPORTER-2
exporter EXPORTER-1
!
!
flow monitor FLOW-MONITOR-2
record v6_r1
exporter EXPORTER-2
exporter EXPORTER-1
!
ip cef
!
interface GigabitEthernet1/0/0
ip address 172.16.6.2 255.255.255.0
ipv6 address 2001:DB8:2:ABCD::2/48
ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 input
ipv6 flow monitor FLOW-MONITOR-2 input
!

```

次に、フロー モニタが2つのエクスポートにデータをエクスポートしていることを示す出力例を示します。

```

Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1
Flow Monitor FLOW-MONITOR-1:
  Description:      User defined
  Flow Record:     v4_r1
  Flow Exporter:   EXPORTER-1
                  EXPORTER-2

Cache:
  Type:            normal (Platform cache)
  Status:         allocated
  Size:           4096 entries / 311316 bytes
  Inactive Timeout: 15 secs
  Active Timeout:  1800 secs
  Update Timeout:  1800 secs

```

例 : IPv4 および IPv6 トラフィック用の Flexible NetFlow Egress Accounting の設定

次に、IPv4 および IPv6 トラフィック用の Flexible NetFlow 出力アカウンティングを設定する方法の例を示します。

この例は、グローバル コンフィギュレーション モードで開始します。

```

!
flow record v4_r1
match ipv4 tos
match ipv4 protocol
match ipv4 source address
match ipv4 destination address

```

```

match transport source-port
match transport destination-port
collect counter bytes long
collect counter packets long
!
flow record v6_r1
match ipv6 traffic-class
match ipv6 protocol
match ipv6 source address
match ipv6 destination address
match transport source-port
match transport destination-port
collect counter bytes long
collect counter packets long
!
flow monitor FLOW-MONITOR-1
record v4_r1
exit
!
!
flow monitor FLOW-MONITOR-2
record v6_r1
exit
!
ip cef
ipv6 cef
!
interface GigabitEthernet0/0/0
ip address 172.16.6.2 255.255.255.0
ipv6 address 2001:DB8:2:ABCD::2/48
ip flow monitor FLOW-MONITOR-1 output
ipv6 flow monitor FLOW-MONITOR-2 output
!

```

Flexible NetFlow : IPv4 ユニキャストフローの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1 : Flexible NetFlow : IPv4 ユニキャストフローの機能情報

機能名	リリース	機能情報
Flexible NetFlow : IPv4 ユニキャストフロー	12.2(33)SRC 12.2(50)SY 12.4(9)T 15.0(1)SY 15.0(1)SY1 Cisco IOS XE Release 3.1S Cisco IOS XE Release 3.2SE	Flexible NetFlow での IPv4 トラフィックの監視をイネーブルにします。 この機能のサポートは、Cisco 7200 シリーズ ルータ用として Cisco IOS Release 12.2(33)SRC で追加されました。 次のコマンドが導入または変更されました。 collect routing 、 debug flow record 、 collect ipv4 、 collect ipv4 destination 、 collect ipv4 fragmentation 、 collect ipv4 section 、 collect ipv4 source 、 ip flow monitor 、 match ipv4 、 match ipv4 destination 、 match ipv4 fragmentation 、 match ipv4 section 、 match ipv4 source 、 match routing 、 record 、 show flow monitor 、 show flow record

